

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000952		
法人名	有限会社グループホーム幸		
事業所名	有限会社グループホーム幸		
所在地	北海道小樽市清水町20番9号		
自己評価作成日	平成25年3月1日	評価結果市町村受理日	平成25年5月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0172000952-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年4月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの理念に基づき、日々楽しい生活を送れるよう支援しておりますが、そのためには利用者1人1人が健康で安心できるホーム生活でなければならないと思っております。そのため、人間が生きていく上で最低限度管理しなければならない血圧・脈・熱・食事量・水分量・排便・排尿等に重点を置き、専門の医院・病院等に受診するように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「幸」は、2006年に2ユニットでの事業を開始し、6年間の実績を持つグループホームである。事業所の正面には、小樽駅から到着するバス停留所があり、交通の利便性に恵まれた住宅街に位置している。広い敷地内には、庭や池、舗装した散歩道が設けられ、利用者や地域住民の憩いの場となっている。開設7年目を迎え、町内会の役員会や総会に参加し、災害時の避難協力を依頼するなど、現在は地域の一員として生活していることを実感している。運営の礎となる理念は、理解し易い内容であり「一日を楽しく過ごせること、地域との交流を図ること」を実践するためレクリエーションやラジオ体操などを通して一日に一度は、笑顔で過ごせることを目標にしてケアに取り組んでいる。また、楽しいと思える内容は、個性が高いので一人ひとりに応じたプログラムを展開している。理念を実践することと同時に職員の意見が反映できるよう、毎朝の申し送りは24時間の時間帯の内容を基に、職員の気づきや疑問点などについて、その都度管理者が指示や指導を行い、十分な時間をかけて行っている。また、月1回実施している内部研修では、感染症や自主避難訓練をテーマに取り上げ充実した内容となっている。今年度から、小樽市の介護保険課に提出する報告書の様式が変更となったため、その点についても担当者と相談、指示を受けながら協力関係を築いている。

V. サービスの成果に関する項目(1階りんごアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階 りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との交流を図ります、を理念にあげ、毎朝勤務前に復唱をしている。町内の人たちへのあいさつ、除雪への協力を行っている。	「今日一日を楽しく、愉快地に、朗らかに過ごせる」「地域との交流」の2点を掲げている。ゲームや歌、体操などのレクリエーションを行い利用者が笑顔で過ごせるケアを模索しながら理念を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	役員会に出席したり、庭及び花などを通じ気軽に話をしている。また、時々、ホーム見学もして頂いている。	町内会の一員として役員会や総会に参加し、町内会の除雪や事業所で災害が発生した場合の避難協力を呼びかけている。開設7年目を迎え事業所自体が地域の一員としての交流を実感している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議の中でホームでの近況報告を話して2カ月の間に何を行ったのか症状例などを報告している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議において、ノロウイルス、インフルエンザなどの感染から終息までを報告し、意見を聞き、今後のサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、小樽市の条例により今年度からは、3か月毎の開催となっている。案内は、全家族に送付し家族の参加を得ている。議事録は事業所内に掲示し、来訪時に閲覧できるようにしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問な点、解らないことは積極的に聞き、改善すべき面があれば、職員全員で取り組む努力をしている。	今年度から小樽市では、介護保険課に提出する報告書の様式が変更となったため、記載方法などについて相談、指示を受けている。事業所の実情を伝え、助言を受けるなど協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は基本的には行わないことにしており、ベッドより転倒を繰り返す利用者にはマットを床に敷き、ベッドを外している。	「禁止の対象となる具体的な行為」については、マニュアルを整えている。決して身体拘束が起こらないよう、申し送りで随時、話し合うことで危険性を予測し、身体拘束をしないケアを実践している。玄関は日中も施錠しているが、利用者は職員と一緒に自由に外出できるようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の虐待は本人自身が気が付かず話してしまう場合があるので、その都度注意を行ったり内部研修の時に話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時に介護支援事業所より独居の方の入居にともない後見制度の相談が時々あり、話し合う機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、運営規程、重要事項説明書、契約書、医療連携加算について十分説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会時、意見及び要望があれば遠慮しないで話しかけてほしいと常々声を掛けている。機会があることに利用者の意見を聞いている。	家族の来訪時に、要望や苦情を聞きその都度対応している。また、利用者は家族に意見を言い易いこともあるので、家族を通して利用者の意見を把握することもある。苦情を通して家族支援の重要性を実感している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回内部研修を行い運営に関する要望などを聞き、改善する事があれば解決できるように努めている。	毎朝、十分な時間をかけて申し送りを行い、その場で職員の意見や疑問点を把握し、指示や指導を行い運営に反映している。また、月1回の内部研修では感染症や避難訓練を議題に取り上げ、危機管理をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	内部研修の中で会議の日を設け、就業についても話し合う機会を設け現在の状況、将来の展望について話し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	機会があれば1か月に1度の内部研修・外部研修に参加出来るよう努め、参考になる事があれば、運営に取り入れるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日頃、利用者サービスがうまくいかない時は相互訪問や電話などによりアドバイスを受け質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階 りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の希望・要望を聞き、面談を行った上で介護計画を立て、安心して頂けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安、要望を聞き、話し合いながら確認する事で徐々に信頼を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応において、認知症の理解が乏しい場合が多いので、症状から説明させて頂き理解して頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人との会話などの時間を多く作り、一緒に何かすることで共に過ごしていると思って頂けるよう努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にホームでの生活や様子を伝え、時間のある限り一緒に過ごして頂き、家族の絆を大切にさせて頂く。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話の中で思い出を聞いたり年賀状や手紙のやりとりを継続して頂けるよう支援しています。	小樽市は人口の変化が少なく、入居前からの人間関係が継続し易いこともあり、長年の友人が来訪している。また、自宅に季節の衣類を取りに行った時には、ご近所の知り合いの顔を見に行ったり、天狗山のロープウェイに乗り、馴染みの場での感動を共有している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	デイルームなどで過ごされている事が多いので、スタッフが会話やレク。体操を通じ、皆さんが孤立せず楽しく過ごせる様努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階 りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人が入院された後、家族と電話連絡し、健康面でのアドバイス等を話し、関係を続けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい生活が出来るよう、自室での消灯時間を決めないなどしています。困難な場合は本人、家族と話し合いながら解決方法を考えている。	入居時に「課題分析(アセスメント)概要」に生活歴や本人の思いや意向を記録し、随時更新している。平均要介護度2ということもあり、生活場面での会話から暮らし方の希望を把握し、ケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からこれまでの暮らしを聞き、居室では生活にあったように自由に利用して頂いてます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の個人の過ごし方は自由ですが、レク、体操などは不調がない限り皆さんと一緒に参加して頂くように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望、ホームでの課題を話し合い、日常生活に連動し、介護できる計画を立てています。	入居前には、医療機関やケースワーカー、家族からの情報を基に暫定の介護計画を作成し、入居後の生活の様子を把握した上で介護計画を作成している。定期的な見直しは、モニタリングを行い1か月毎に作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝礼時に気付きや情報を出し合ってサービス担当者会議に記録し、介護計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症の進行、身体の不調等、毎日のケアを通じ、早期発見、早期治療できるよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	レクを通じ、小樽の自然を楽しみ、地域のお祭りや小学校の運動会、学芸会へ行き楽しんで頂けるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個人に合った専門医の受診を行うことで、的確な医療が受けられるよう支援しています。	入居前から受診していたかかりつけ医の方が本人の健康状態を把握しているので、継続できるようにしている。かかりつけ医を受診する際は、事業所や家族と協力しながら適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者にとって大切なことは健康の維持であり、毎日の食事量、水分量、排便、排尿などを中心にチェックを行い、受診や看護に生かせるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する事があれば、ホームでの介護添書を提出したりホームでの生活や健康状態などについて情報を共有し早期に退院できるよう協働している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居する時に食事が食べられなくなったり水分量の減少が目立ってきた時は入院の対象となり重度と判断する事を十分話し合い理解して頂いている。	本人や家族が安心できるよう、入居時に「看取りの指針」を基に説明し、同意書を取り交わしている。また、入院期間が長期になる場合は、経済的な負担を軽減できるよう相談や助言をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	巡回時、急変が発生したらまず救急車を呼び、看護師を呼び応急手当などの初期対応を怠らないことを機会あるたびに話し合っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に置いてはまず煙を発見したら消火と火災ベル、消防への連絡を訓練を通し身につけ、推進会議役員の方々に協力をお願いしている。	消防署の指導の下に年2回、夜間や厨房からの出火を想定して避難訓練をしている。また、3か月毎に自主訓練を行っている。階段の踊り場を広くすることで2階の利用者が迅速に避難できるよう検討中である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より利用者の人格に合った対応、言葉かけに注意し、職員全員が共有できるよう朝の申し送り時に話し合っている。	命令口調や上からの目線の言葉かけに注意している。言葉遣いが気になった時は、管理者が使ってはいけない理由をその場で説明し指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝の申し送り時、昨日よりの利用者の状況から希望などを察知し本人と話し合い納得して頂けるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で出来る限り関わりを持つよう職員にアドバイスをし、利用者の希望を察知できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容は1か月に1回美容室を希望する方は外出をして頂き、時には身だしなみについて個々に話し合っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階 りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食時に本人の好みや食べやすい工夫(刻み・ミキサー)やスムーズに食事して頂けるよう支援しています。食後の洗いの等行って頂いています。	食材会社が作成した献立に、魚、さしみ、お寿司類を取り入れ、副食3品を基本にした食事を提供している。ミキサー食の利用者には、調理した食材が分かるように説明している。職員は利用者に合せてゆっくり食事を介助している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲食量を毎時チェックし、不足の時は時間をずらし、少量ずつ小分けして摂取して頂いています。水分は本人の好みに応じて出しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを見守り介助を行っています。義歯の方は歯茎のチェックも行い不具合がないか確認しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間ごとのトイレ誘導と共に個人の排便のリズムに合わせる事で失禁等の軽減に努め支援しています。	トイレでの排泄を目標に、夜間も出来るだけトイレに誘導している。全員の排泄チェックのパターンを基に支援し、1時間毎の誘導から失敗が少なくなった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に対し腹部マッサージや運動をすることで自然排便して頂けるようにしています。それでもダメな時は医師に相談し、下剤を使用しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には入浴日は決まっていますが本人の希望があれば、午前、午後、翌日等に変更するように努めています。	週4回を入浴日とし、一人2回の入浴を目安に午前中に行っている。受診、レクリエーション、体調などで変更が必要な時は、曜日や時間を変更して柔軟に対応している。3種類の入浴剤を好みに合わせて使用したり、会話しながら入浴を楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜の逆転が無い限り休息、睡眠は本人に任せています。日中の休息は夜間の睡眠に影響がない様配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	朝礼時に薬の作用・副作用について話し合い、変更があった時は理由・目的について確認を取っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の下ごしらえや食器洗い等、役割が負担にならない様配慮しています。今日1日が楽しかったと思って頂ける関わりをするよう努力しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階 りんご)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望にすぐ外出する事は難しいが、レクリエーションの予定に入れ出かけている。地域の祭りや催しなど皆で楽しめる外出をしています。	雪解け後は、広い庭で毎日のように散歩や外気浴を楽しんでいる。ニッカウキスキー工場、天狗山のロープウェイ、紅葉見物などの外出行事やドライブを楽しみ、受診を含めると月4回の外出を支援している。冬季は受診以外は、屋内で運動を取り入れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホーム管理とさせて頂いてますが、本人・家族と話し合い、希望されるのであれば小銭等を所持したり家族が見守る時に使える配慮をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、レターセットを購入し、定期的に手紙を書かれている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間と居室とは離れており、不快や混乱及び刺激などを与えない建物となっており、窓から見える庭から季節感や、道を歩く地域の人や除雪している姿を見て日々の生活を感じる事ができる。	居間兼食堂は、コーナー両面窓からの自然採光で明るい。観葉植物や金魚が泳ぐ水槽が置かれており、心地よい空間になっている。洗面所には大振りの造花を飾り、全体が明るく家庭的な雰囲気作りをしている。階段の段差を色分けして安全に昇降できる工夫も見られる。また、廊下には個別の収納庫を設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者さん同士、普段はデイルームでテレビを観たり会話したり、音楽を聞かれ過ごされております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	チェストの配置やベッドの向きなど、本人の希望に合わせて、設置しています。花、写真なども飾り本人が居心地よく過ごせる様配慮しています。	居室の入り口には顔写真を飾り、自室が分かるように配慮している。全室に温室時計を設置し、感染症予防の環境を整えている。馴染みの家具類や昔の家族写真を飾り、落ち着いた居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が解るよう居室前に写真を飾っています。ベッドから転落の恐れがあればマットを敷き、安全性を高めています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000952		
法人名	有限会社グループホーム幸		
事業所名	有限会社グループホーム幸		
所在地	北海道小樽市清水町20番9号		
自己評価作成日	平成25年3月1日	評価結果市町村受理日	平成25年5月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0172000952-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年4月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1階 りんご」ユニットに同じ

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(2階みかん アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階 みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「楽しく・愉快地・朗らかに」という理念を作り、毎朝復唱することで理念の共有ができるように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の会合にも出席をし、また盆踊りなどの行事にも参加を呼び掛けるなどして交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の役員会及び2か月に一度のホーム便りを町内に回覧し、理解して頂けるように働きかけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には家族に手紙を出し、参加を呼び掛けることでより利用者に近い意見が聞ける場になるようにしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないことや疑問点は積極的に指導を受ける様に努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを目指し、特に転倒の恐れのある利用者に身体拘束なしで転倒・ケガを予防できる方法を考えている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についての講演などには積極的に参加をし、虐待の防止につながるよう、注意している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階 みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の制度について学ぶ機会は出来るだけ活用し、支援につなげられるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は説明の行き違いがないよう丁寧に行い、疑問点がなく理解して頂けるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族がホームに来られた際に要望などを尋ねるようにして、その意見を反映させるようにしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送りや月に一度の会議の際に職員の意見を聞く様にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃より健康のことを聞いたり、職場に対する不安・利用者さんとの取組などを話し合い各自が向上心が持てる環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1カ月に1度、外部研修に参加出来る様に声掛けし、参加者にはレポートを提出してもらい、職員間で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会が行うグループホームの相互訪問研修に参加し、交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階 みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用初期には見守りや話しかける機会を増やし、不安なく過ごせる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用する際にその要望を聞く様にして、不安などがなくなるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する際に面談を何度も行い、介護計画を作成し、必要な支援を行えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話したり、ゲームを一緒にすることで共に生活をしていると言う意識を持てるようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの利用者の様子を細かく伝え、またその意向を聞く事で共に支援をしていけるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の所への送迎をするなどして、関係が継続されるように支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員が集まる食堂などで会話やゲームをするなどの支援をして、関わりが持てる様にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階 みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者さん(死亡)の娘さんがデイサービスを利用されておられるので相談を受けることが時々あります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの意向に沿った生活が出来るよう、関わりの中からその希望を把握するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前の面談で本人のこれまでの生活・好みなどを把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	関わりを持つことで1日の状態を把握できるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日全員の状態を申し送り、変化があった場合などは意見を出し合いながら介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	昼夜の様子を記録し、その際の対応や気づいたことを記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入浴・食事・身体的不調がある場合ニーズに対応し入浴・食事時間をずらしたり、身体の安静を保つため、臥床を促したり納得がいかない治療をする医院を変更する時もあります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	体力的に足腰がしっかりしている方にはホームの散歩コースだけにこだわらず、気分転換を図る為町内の道路の散歩を試みている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム利用前から受診している医師への受診を基本とし、帰る場合も本人・家族との話し合いを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1ユニットに1名、看護職員がいるので朝の申し送り時24時間の利用者の情報をキャッチすることにより適切な受診・看護・ケアを試みている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をされる際には病状以外のホームでの生活の様子を伝え、また入院中も定期的に病院へ行き、状態を把握するように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階で重度化(食事が摂取できなくなった。短期間で入退院を繰り返す。原因不明の熱が継続している)した場合、主治医、家族、ホームで説明を共有し、対応して行くことを説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変及び事故発生時の訓練は定期的に行ってはいないが、時々実践している(蘇生と誤嚥)。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2回の消防署指導のものを含めて年6回の防災訓練を行い、避難誘導がすみやかに出来るようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重した丁寧な対応をするとともに、家庭的な温かみのある言葉使いをするように注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人との関わりを持つことで、その思いや希望を聞く様にし、自己決定ができるように支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	団体生活としてのルールは設けるものの、それぞれの希望を尊重し、無理がないように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に応じた身だしなみを整えられるよう、美容室への送迎をしたり支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の内容や味付けが好みのものになるように意見を聞いている。準備や後片付けに協力をして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1,200Calとなるよう栄養士と話し合い、食が細いと感じた時は栄養剤を飲んでもらっている。水分量は体重×24で目安を計算して摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを実施し、口腔内の清掃に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁をされる利用者の排泄パターンをチェックし、その時間帯に誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな利用者は日頃から歩行等運動を多くするよう試みている。それでもダメな時には医師と相談し、下剤で対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には曜日を決めて入浴して頂いているが、本人が希望したり、必要であれば個々に支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息は自由に状況に応じてして頂いている。安眠も本人の希望で入眠して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬は出来る限り理解するよう、朝の申し送りの時に話合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日頃より関わりを多く持つ様に努めている。役割においては食材の芽取り、散歩などを毎日行い、気分転換を図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階 みかん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者本人から外出を希望される事はほとんどないので、ホームから声掛けをしている。家族からの希望により外出されることが時々あります。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いはホーム管理とさせて頂き、外出時、本人に渡し、買い物を楽しんでもうらうことが時々あります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙等は自由にやり取りができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂及びトイレなどは居室より距離があるのでテレビの音や光等の刺激が少ない。食堂には金魚・植物を置いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂においてはできる限り気の合った利用者同士が座って話せるような配置にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入居時に自分の部屋なので本人及び家族が好きなように配置し使い慣れた思い出のものを飾って頂けるように話をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドより転倒しそうな人、足が悪い人の居室にはコールで知らせられるように配慮したり、建物内部は事務所から見て死角を作らない構造になっている。		

目標達成計画

事業所名 有限会社 グループホーム幸

作成日：平成 25年 5月 8日

市町村受理日：平成 25年 5月 9日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	34	夜勤時の転倒・誤薬・急変について	①転倒防止に努める。 ②誤薬をしない。 ③応急手当の徹底。	①転倒しそうな利用者の把握と声掛けを毎夜行う。家族への連絡は早く行う。 ②2人で確認するときは「間違っている」と思って確認しあう。 ③訓練の徹底と家族への連絡は早く行う。	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。